



さあ、駅伝大会に行こう

内子町駅伝大会は、内子町が合併してから12回目を迎えます。町全体がコースになってからは3回目。もっと大会を身近に感じてもらうため、地域の人みんなが駅伝大会を盛り上げるために出場する選手や応援をする人たちに、大会への思いを聞きました。

写真：たすきを握る内子高校陸上部の皆さん



森並 英子さん
=内子18第2=

同級生チームで駅伝に出場 記録よりも駅伝を楽しみたい

同級生中心のチームで駅伝大会に参加しています。駅伝はみんなですきをつないでゴールする達成感があって、とても楽しいです。速さは関係なく、誰でも楽しめる内子町の駅伝大会が好きです。椅子に座ったおばあちゃんから応援してもらったときには元気をもらいました。



長尾 愛子さん
=西沖=

若い人には負けない 昨年の最高齢出場者

若い人にはまだまだ負けないという気持ちで走っています。少しでも練習を休むと走れなくなってしまうので、1日10^{km}の練習を週5回しています。私が走れるのは周りで支えてくれる人たちがたくさんいるから。感謝の気持ちを忘れず、これからも走り続けたいです。

走って楽しい 小さな町の駅伝大会

内子町駅伝大会は、誰でも楽しく走れて、地域の人たちと交流できることが魅力。その魅力を感じて、毎年たくさんの選手が出場しています。選手の皆さんに駅伝大会への思いを聞きました。

町の駅伝大会の魅力
内子町駅伝大会には、速いも遅いも、若いも若いも関係ありません。自治会や職場など、好きな人同士でチームを組んで、楽しく参加できるのが魅力です。地域の人たちと集まって練習をしたり、大会の後に仲間と成績についてワイワイ話したり、懇親会の酒の肴にしたり、地域の大切な交流の場でもあります。昨年は11チーム、777人が参加。年々参加者も増え、多くの人が楽しみにしている内子町の一大イベントになっています。

それぞれの思い
この時期になると、駅伝大会に向けて、早朝や夕方に走る人の姿を多く見かけます。区間賞を狙う人、チームの足を引っ張らないようにする人、本番でけがをしないようにに鍛え治す人、練習する理由はそれぞれです。選手のことを少しでも身近に感じてもらうと、大会への思いを4人に取材しました。今年もたくさんの選手がそれぞれの思いを秘めて、新春の内子路を走ります――。

総合優勝2連覇中の内子高校陸上部に話を聞きました

最後までたすきをつないで、チームの絆を深めたい



内子高校陸上部キャプテン
宗金 翔太さん

今年の陸上部の男子部員は2年生3人、1年生8人です。練習がきつときには、みんなで励まし合えるまとまりのあるチームです。前回大会は、中・長距離専門の選手が多く、総合優勝2連覇を目標に練習していました。主力が抜けた今年は、部員のほとんどが短距離専門の選手で、昨年ほどの強さはありません。駅伝を楽しみながら、最後までたすきをつなぐこ

とがチームの目標です。個人では区間賞を狙っています。チームを引っ張って、先輩たちの記録に少しでも近づけたらうれしいです。駅伝は仲間と一緒にたすきをつなぎながらゴールを目指すので、達成感あってチームの絆が深まる競技だと思います。悔いの残らないように練習して、本番に挑みたいです。

親子で優勝を狙う山本隼さんに話を聞きました

優勝して、父にうまい酒を飲ませたい

2人とも走ることが好きで、愛媛マラソンや内子町の駅伝大会に毎年出しています。私はフィットネスクラブRyuowで働いているので、駅伝は職場のチームで走っていました。今年は父のいるチームを6年ぶりに優勝させるために、川登自治会で走ります。私がどのチームもエースが走る2区、父がアンカーの7区です。チームの大事な区間を任されてい

ます。父は長年走っているので負担がかかり、2、3年前から膝を痛めています。父に少しでも余裕を持って走ってもらうために、区間賞を狙います。他のチームと出来るだけ差をつけて、父までたすきをつなぎたいです。駅伝大会は川登自治会の楽しみの一つ。優勝して地域の人や父と一緒にうまい酒が飲めたら最高ですね。



山本 隼さん(左)
山本 哲昭さん(右)

大会の審判長に話を聞きました

町全体で駅伝大会を盛り上げたい

これまで駅伝大会に携わって来て1番うれしかったことは、第10回目の合併記念大会から、五十崎・内子・小田の旧3町をまたぐ新コースになったことです。町全体がコースになり、地域の人々の関心が高まりました。参加チームも

少しずつ増えていて、大会の盛り上がりも年々増えています。

今まで駅伝大会を続けてこれられたのは、たくさんの人の協力があつたからです。本当に感謝しています。今年の大会も、みんなで盛り上げていきましょう。



内子町スポーツ推進委員
越智 治徳会長

応援は選手の方に 走る姿は町の人々の活力に

沿道から送る声援は、走る人の力になっています。一方で、選手の頑張る姿に元気をもらっている町の人もたくさんいます。大会の審判長をはじめ、それぞれの思いを持ったサポーターに話を聞きました。

応援も見どころの一つに
選手が安心して走れるのは、沿道で応援をする人と、警察や地域のボランティアスタッフが支えてくれるからです。駅伝大会では、そんなサポーターたちにも注目して、いつもと違った角度から見ると大会をより楽しめるかもしれません。内子町駅伝大会は小さな町ならではの魅力と見どころがたくさんあります。1月15日は、沿道で、選手たちを応援しませんか。

援している石田由美子さんは、「ゴール前や中継地点には応援する人が多い。選手は誰もいないところを走るのが1番しんどいと思うので、なるべく観客の少ないところで応援して、選手を励ましたい」と優しくほほえみ笑います。また、商店街や民家のそばを駆け抜けるコースなので、選手を間近に見ることが出来ます。「頑張っている人を見ると、こちらも元気をもらえる」と多くの人が口にします。応援が選手の力になり、選手の頑張っている姿が地域の人たちの活力につながる。このことも内子町駅伝大会の魅力の一つです。

応援が力になる
「ドンドンッ、ドンドンッ、みんながんばれー」。
昨年の駅伝大会で出会った高岡博さんは、元気よく太鼓をたたきながら選手に声援を送っていました。沿道には他にも、選手を励まそうとたくさんの方が駆け付けていました。応援する人たちの思いはそれぞれです。共通しているのは、知っている人だけを応援するのではなく、選手みんなの応援をして、大会を盛り上げようとしていることです。毎年手作りのポンポンで応



高本 晴香さん(右)
藤内 咲菜さん(左)
小田高校3年生



石田 由美子さん
内子22



松田 光博さん
上町



高岡 博さん
梅津



済世会小田老人保健
施設ふじの園
西山 恵子さん
小田上



大洲警察署交通課
福島 秀太郎さん

ゴールテープを持って待っています

ラストスパートはしんどのいで、選手の姿が見えたら、大きな声でエールを送りたいです。卒業後は2人とも、就職と進学で地元を離れます。地域のイベントに参加する機会は少なくなるので、駅伝大会に少しでも貢献したいです。

頑張っている人を応援するのが好き

ドイツ語講座でお世話になっている国際交流協会のランナーを励まそうと、ポンポンを作って応援をしています。頑張っている人の姿が好きで、毎年駅伝大会を楽しみにしています。ランナーみんなの力になればと思います。

ゴール前の実況で大会を盛り上げたい

ゴール前で、走ってきた選手の番号とチーム名を実況しています。観客から「自分の応援している人が来るのが分かってとてもいい」と言われたことがうれしかったです。今年は、選手の事前情報なども集めて、実況で大会を盛り上げたいです。

太鼓をたたいて選手の背中を後押し

寒い中、一生懸命走っている選手を少しでも励まそうと家の前で応援をしています。私がけがをして仕事ができなかったときに助けてもらった地域の人走っているの、感謝の気持ちを込めて、今年も精一杯太鼓をたたきます。

横断幕と一緒に働く職員を応援

スバルがゴールになってから、入所者と一緒にせせらぎの前で応援しています。入所者は、職員や若い人たちの走る姿に元気をもらっているみたいです。遠くまでは応援に行けないので、小田が駅伝のコースに入って良かったです。

選手の皆さんを安全に先導します

どんなに速い記録よりも選手の安全が第一です。先導中はいろいろな方向に注意をして、常に緊張感を持っています。駅伝大会の主役は選手。皆さんが練習の成果を発揮できるように全力でサポートします。安心して走ってください。



努力の数だけ笑顔がある、

チームの数だけドラマがある。

内子町駅伝大会、1月15日正午スタート!

／ 頑張るぞ～ ／



この日のために練習をしてきた選手の皆さん、応援を楽しみにしている皆さん、いよいよ駅伝大会がやってきます。

笑顔、涙、汗、感動—— 今年は何んなドラマがあるのでしょうか。

町民みんなで作る最高の舞台。さあ、駅伝大会に行きましょう。

※コースなどの詳細は、20ページをご覧ください。

